九十九島の干潟で暮らすカブトガニ

カブトガニは環境のバロメーター

魚類担当　岩岡　千香子

必要な環境を全て満たす九十九島

小さいころから生き物が好きで、将来の夢は「動物園の飼育員さん」でした。その夢が叶い、動植物園（現・森きらら）の飼育係を経て海きららで働き始めて18年になります。現在、クラゲとイルカ以外の生き物全般の担当をしていて、就職当初からカブトガニの調査研究をしています。調査は干潟などに行き、カブトガニを探すことから始めます。長年調査をしているせいか、最近は干潟を歩く足の感覚だけで、この辺にいそうだなと分かるようになってきました（笑）。

カブトガニって、産卵は砂地で、子どものころは干潟で暮らしますが、成長するにつれて藻場に行き、どんどん深いところに移っていくんですよ。生きていくには豊富な餌も必要で、潮の流れなども影響します。そんな一連の環境を全て満たしているのが九十九島海域なんです。

2億年前より生きづらい環境に

カブトガニの面白いところ、まず見た目が最高に面白いと思います（笑）。その形や生態は2億年も前から変わっていないそうなんです。すごく前に進化を終えて完成されているんでしょうね。でも今、全国的に数が減り、絶滅危惧種に指定されているということは、カブトガニにとっては恐竜が絶滅したときよりも今の環境の方が苦しいということですよね。氷河期にも生き延び、夏場は40度を超える干潟でも生きていけるほど気温の変化には強いはずなので、原因は住む場所が少なくなってきていることかなと考えています。海岸がコンクリートで埋め立てられたり、砂地がなくなったりするだけで住めなくなってしまうんです。国内では、主に九州北部と瀬戸内海の一部にしか生息していないといわれていますが、九十九島海域は自然が豊かで本当に貴重なフィールドだと思います。

九十九島を歩いて、見て、触ってほしい

環境教育の取り組みとして市内の小中学校や高校、大学などに行って出前講座などを行っていますが、これからもそんな機会を通して自然環境の大切さなどを伝えていきたいと思います。カブトガニの現状やカブトガニが環境のバロメーターになっていることなどを子どもたちに理解してもらいたいですね。そして、できれば、観察会などで九十九島の干潟を実際に歩いて、目で見て、生き物にも触ってもらいたいと思います。そうしたことを通して子どもたちの記憶に残るお手伝いをしていきたいですね。

取材日　2月13日

特集

いのちをはぐくむ 海きららの飼育員さん

地球上には約 20,000 種、日本の海には約 3,500 種の魚たちが生息しているといわれており、そのうち九十九島近海には約 1,000 種の魚たちが生息しています。西海国立公園でもある九十九島の複雑な地形は多くの生き物を育んでいて、クラゲ類 100 種以上、沿岸のカニ類 60 種以上、貝類 120 種以上など、魚以外の生き物の種類や数が多いことも確認されています。海きららは、そんな自然豊かな九十九島の海と生き物を再現した水族館です。最近、飼育しているイルカの妊娠が話題になりましたが、そのような九十九島に生息する海の生き物の貴重な命を育んでいくためには、海きららで調査研究などを日々行っている飼育員さんたちの存在が欠かせません。今回の特集では、そんな飼育員さんに九十九島の生き物たちの魅力や関わり方などについて話を伺いました。

イルカたちの本能を満たし、生き生きと暮らせるように

イルカ担当　駒場　昌幸

魅力と能力にあふれたイルカたち

小さいころから釣りが好きで、魚や生き物の生態系に興味がありました。大学時代に南極のクジラ調査に参加して、研究者に憧れましたが、研究をしながら一般の人にもクジラやイルカのことを伝えることができる飼育員の仕事に魅力を感じ、水族館に就職しました。これまで愛知の水族館でイルカショーを担当したり、沖縄のイルカふれあい施設でイルカセラピーをしたりして、現在海きららのイルカ担当をしています。

イルカと関わってもう24年になりますが、一言では言い表せないくらい魅力があります。遊び心や好奇心が旺盛で人にも寄ってきますし、運動能力や動体視力もとても高いんです。海きららのイルカはジャンピングキャッチボールで有名ですが、スーパースローで撮影してみると、あの速いボールのやり取りもイルカにとってはまだ余裕があることが分かりました。イルカには私たち人間が知らない能力がまだたくさんあるんだと思います。

子育てを体験させてあげたい

私たちは日頃から「イルカにとって一番暮らしやすい場所を作ってあげよう」ということを一番に考えています。今回、人工授精に取り組んだのもそこが出発点です。物を食べたい、遊びたいという欲求と同じように、子どもを産んで育てたいということもイルカの持つ本能だろうと考えて取り組みを始めました。「イルカたちの本能を満たしてあげたい」「子育てをイルカたちに体験させてあげたい」という思いで日々取り組んでいます。

これまでイルカの人工授精による出産例は国内で2例しかなく、取り組みは難しいことばかりでした。今回イルカが2頭とも妊娠できたのは、県外の水族館や大学など関係機関の協力があったおかげだと思います。精子の提供や排卵のタイミングなど、不安なところもたくさんありましたが、エコー検査でお腹の赤ちゃんを見ることができたときは本当にうれしかったですね。赤ちゃんが生まれるまではまだまだ安心できませんので、皆さんには温かく見守っていただきたいと思います。

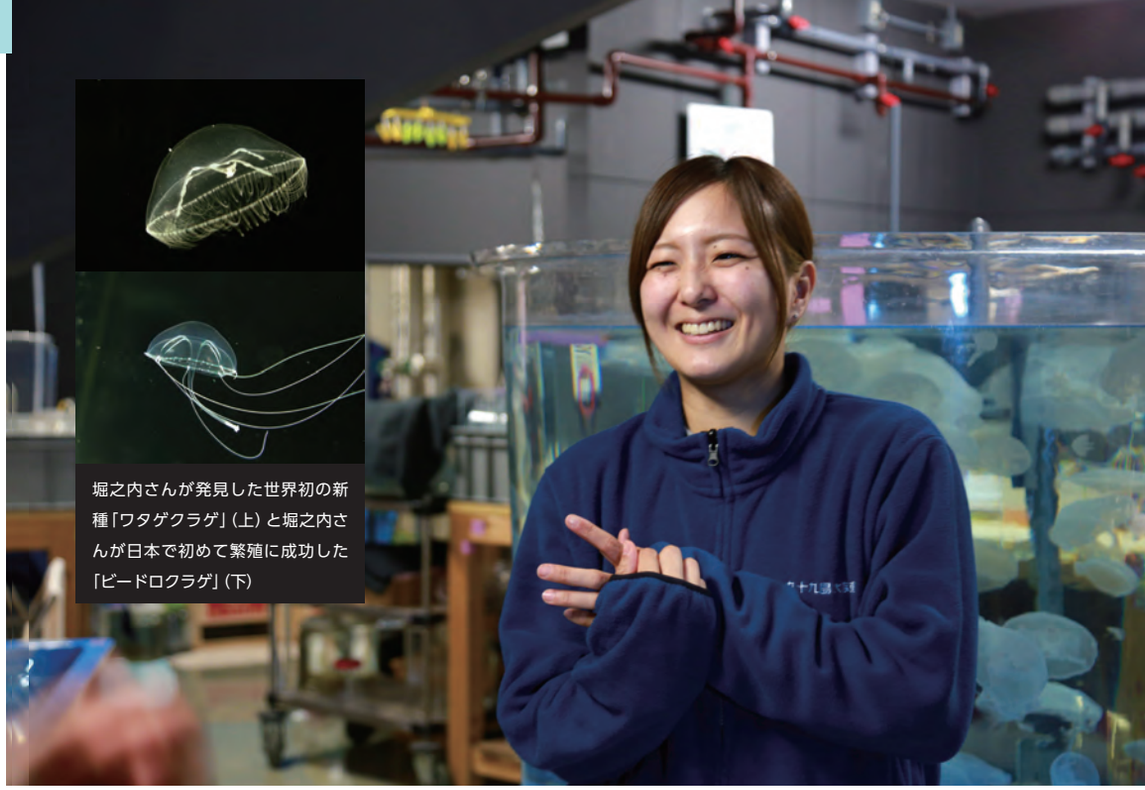
イルカにとって楽しい時間を

頭の回転が早く、すぐに飽きやすいイルカたちが毎日楽しく元気に暮らすために必要なもの。それはスタッフの創造力なんです。例えば、待つことを教える場合も、ほめ方を変えたり、近くにボールを置いたり、ボールの大きさを変えてみたり…。そのようにイルカに興味を持たせてあげると待てる時間も長くなるし、イルカにとっても楽しい時間になるんです。どうやったらイルカは楽しいんだろう、どんな道具を使うと喜ぶんだろうと、いつも頭を働かせています。

使用する道具もほぼ全てが手作りです。ある時を境に、イルカたちは鋭い歯を使ってボールを割る遊びを覚えてしまいました。イルカが噛んでも割れないボールが市販されていなかったため、防弾チョッキの生地を使うなど、試行錯誤しながらさまざまなボールを手作りしました。今は状況に応じて使い分けしているんですよ。

海きららのイルカはそのようなスタッフ一丸となった取り組みによって、ショーのときだけでなく、自由に過ごしている時間もとても生き生きしています。ご来場いただいた皆さんには、そのような海きららならではの姿もぜひ見ていただきたいと思います。

取材日　2月7日



堀之内さんが発見した世界初の新種「ワタゲクラゲ」（上）と堀之内さんが日本で初めて繁殖に成功した「ビードロクラゲ」（下）

たくさんの子どもたちに関心を持ってもらえるように

クラゲ担当　堀之内　詩織

美しく繊細なのに強い不思議なクラゲ

幼いころ、イルカショーで指示を出すトレーナーを見てからずっと水族館で働きたいと思っていました。その後、学生のときに海きららで研修する機会があり、九十九島に対するスタッフの皆さんの熱意に感動して就職を決めました。

就職して約9年ですが、当初からクラゲ担当でした。新人のころは「クラゲって目があるんだよ」「心臓がないんだよ」と親や友人に話すと、驚いたり、関心を持ったりしてくれるので、それがうれしくて、いろいろ自分で調べるようになりました。そしたらどんどん興味が湧いてきて好きになっていきましたね。見た目も美しく、ちょっと触ると傷付くほど繊細なのに、荒波にもまれても余裕で生きていける不思議なところが大好きです。

皆さんのおかげで世界初の新種を発表

クラゲの調査研究では、百種類以上ある不明種の解明などを行っています。今まで世界初の新種が2回も見つかるなど、九十九島海域はすごく可能性を秘めているんですよ。クラゲを展示している水族館は他都市にもありますが、海きららほど調査研究に力を入れているところは他にないと思います。

海に出ることも月に8～12回ぐらいあります。展示するにしても、まず自分で見て、潜って、体感してからというのが海きららのスタンスなんです。

漁師さんから珍しいクラゲが獲れたときなどに連絡をいただいて取りに行くこともありますが、大変貴重な情報でありがたく思っています。それから調査研究には大学教授など専門家の方の協力も欠かせません。何か発表するときには学術的なことなど豊富な知識と念入りな準備が必要で、何年もかかったりするんです。これまでさまざまな発表ができたり、新種の採集者として論文に名前を残したりできたのは、そのような多くの皆さんのご協力のおかげだと思っています。

ずっとクラゲの研究を続けている高校生

海きららには子どもたちがたくさん来て質問攻めに遭うこともあります。中には幼いころからクラゲの研究を続けている高校生もいて、ある日、話を聞いてみると「小学生のときの海きららでの飼育体験がきっかけで今でも研究を続けています。海きららが僕の研究の原点なんです」とのこと。その言葉を聞いて、夢を与えるような仕事をしているんだなと思い、自分が以前と逆の立場になっていることに気付きました。今後もたくさんの子どもたちに関心を持ってもらえるように頑張っていきたいです。

取材日　2月7日

イルカの妊娠情報

昨年11月と本年2月にイルカのニーハとナミが人工授精で妊娠しました。お腹の赤ちゃんが順調に成長すれば、ニーハは9月中旬、ナミは11月中旬に出産予定です。今後もイルカショーは続けていきますが、イルカたちにとって最適な運動になるよう、スピンジャンプなどを控えた内容に変更していく予定です。

また海きらら公式サイトでは、「イルカの妊娠日記」を公開しています。イルカのエコー動画なども公開していますので、どうぞご覧ください。

九十九島パールシーリゾート

春のおすすめイベント！

裏きらら
～水族館の裏側をのぞいてみよう！～

水をきれいにする機械や展示する前の生き物が暮らす水槽など、水族館の裏側を期間限定で公開します。

日程　5月3日㊍㊗～6日㊐
　　※10時～12時。雨天中止。
場所　海きららバックヤード
料金　無料（別途入館料が必要）

シーカヤック体験

日程　4月～10月の日曜、祝日
　　※11時～15時30分（約45分）。
場所　九十九島パールシーリゾート内マリーナ
対象　4歳以上
料金　1人乗り艇520円、2人乗り艇1,030円

九十九島遊覧船パールクイーン サンセットクルーズ

九十九島に沈む夕日を遊覧船パールクイーンから眺めるクルーズです。

日程　5月3日㊍㊗～5日㊏㊗
　　※18時20分（出航時間は目安）。
料金　高校生以上1,400円、4歳～中学生700円
定員　280人

朝きらら

オープン前の早朝の水族館と九十九島のクルージングがセットになった「朝きらら」を開催します。

日程　5月3日㊍㊗～6日㊐
　　※8時～10時。
場所　海きらら、九十九島海域
料金　大人3,730円、4歳～中学生2,220円、3歳以下100円（保険料含む）
定員　各日先着40人
申込　希望日の前日までに公式サイト予約フォーム（http://www.pearlsea.jp/yoyaku1/）で
※当日だけ水族館に再入館できます。

海きららプラ板ストラッププレゼント

プラ板で作成した海きららの生き物たちのストラップをプレゼントします。

日程　5月5日㊏㊗9時～
場所　こどもひろば　あまもば
対象　小学生以下
料金　無料（別途入館料が必要）
定員　先着50人

無人島上陸とエサやり体験クルーズ

日程　4月28日㊏、29日㊐㊗、30日㊊㊡、5月3日㊍㊗～6日㊐
　　※10時30分、11時45分、13時、14時15分（出航時間は目安）。
対象　4歳以上
料金　高校生以上2,050円、4歳～中学生1,030円
定員　各便10人

特集に関するお問い合わせ　九十九島パールシーリゾート　☎28-4187